

6 本時の目標と展開 (授業②1年2組)

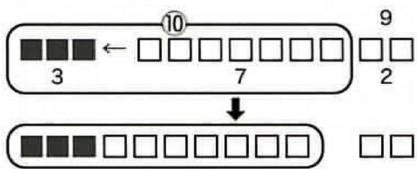
(1) 本時の授業構想図

本時のねらい	1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法(被加数分解)があることを知り、計算の仕方について理解する。	
振り返り	10のまとまりをつくれば、計算することができる。 数が大きい方に、10のまとまりをつくるほうがよいことがわかった。	
本時のバージョンアップされた考え	今までと違って、たすより前の数(被加数)を分けて後ろに10のまとまりをつくって計算してもよい。	
本時の「しなやかに考える子ども」の姿	「これまでの学習と同じように10のまとまりをつくれればできそうだ。」 「今までと違って後ろの数が大きい。」 「大きい数に10のまとまりをつくと速くできそうだ。」	
しなやかさに欠ける子どもへの支援	10のまとまりをつくるためには、数をどのように分けたらよいかを考えさせる。	
ギャップを乗り越えさせるための算数的活動	10のまとまりをつくって計算するには、どちらの数の方に10をつくったらよいかをブロックや計算図を使って説明させる。	
ギャップ(違いやつまずき)	今までと違って、後ろの数のほうが大きい。	
既習	10の補数 10のまとまり 10といくつ 加数分解による計算	
問題	「たまごはあわせてなんこですか。けいさんのしかたをかんがえましょう。」	
評価基準	被加数、加数の大小に関係なく10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。(数学的な考え方)	
評価の具体	十分満足と判断される状況	努力を要する状況の児童への手立て
	10のまとまりをつくることに着目し、計算の仕方を説明することができる。	あといくつで10になるかを考えさせ、数を分解し10のまとまりをつくらせる。

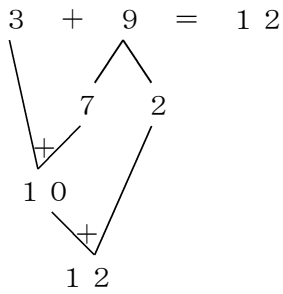
(2) 本時の目標

1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）があることを知り、計算の仕方について理解する。

(3) 本時の展開

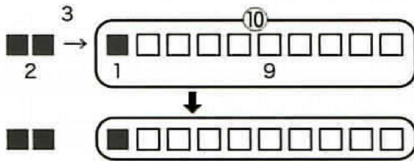
段階	学習活動と予想される児童の反応	留意点（・）と評価（□） しなやかに考える子どもの姿（※）
つかむ 10分	<p>1 問題を把握する。</p> <p>○今日の問題です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> たまごはあわせてなんこですか。 けいさんのしかたをかんがえましょう。 </div> <p>○式はどうなるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $3 + 9$ <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> $3 + 9$のけいさんのしかたをかんがえよう。 </div> <p>○答えはいくつくらいになるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10より大きくなる。 ・ 12個。 <p>○どうすれば計算できるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10のまとまりをつくれればできそう。 ・ ブロックで考えよう。 ・ 計算図で考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を提示し、意欲を喚起するとともに、問題のイメージをとらえさせる。 ・ 前時で学習した式と比較し、本時は被加数より加数大きいことに気付かせる。 ・ 被加数分解の見通しをもたせたい。
考える 7分	<p>3 自力解決をする。</p> <p>○ $3 + 9$の計算のしかたを考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ブロックで、9を7と2に分けて ② 計算図で、9を7と2に分けて ③ ブロックで、3を2と1に分けて ④ 計算図で、3を2と1に分けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解決の見通しのたたない児童には、$9 + 4$の学習を想起させ、10のまとまりをつくれればよいことに気付かせる。 <p>※（仮説1に関わって）</p> <p>加法計算の方法を、ブロックや言葉、計算図を使って考えさせる。</p> <p>「3はあと7で10だから、9を7と2に分ける。3と7で10のまとまりをつくる。10とこの2で12になる。」</p> <p>「9はあと1で10だから、3を2と1に分ける。9と1で10のまとまりをつくる。この2と10で12になる。」</p>
つくる	<p>4 学び合う。</p> <p>○自分の考えを発表しよう。</p> <p>① 加数分解による方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブロックで 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10のまとまりをどのようにつくったのかに重点をおいて発表させる。 ・ ブロックを操作して答えを求めた児童は、言葉で説明しながら操作させる。 ・ どの考えも既習事項を生かし、10のまとまりをつかって解決できたことを積極的に認めるようにする。 ・ ブロック操作と計算図を結びつける

・計算図で

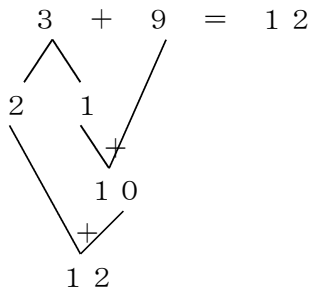


②被加数分解による方法で

・ブロックで



・計算図で



○似ている点、違う点について話し合おう。

- ・どの考えも10のまとまりをつくっている。
- ・10のまとまりをつくるには、3と9のどちらを分けてもよい。
- ・小さい数を分けた方がすぐできそう。

○どうして、9のほうに10のまとまりをつくったのかな。

- ・10のまとまりをはやくつくることができる。
- ・1動かすだけでよい。

13分

まとめ

5分

5 学習のまとめをする。

10のまとまりをつくれれば、けいさんすることができる。
おおいにかずに10のまとまりをつくとよい。

※（仮説2に関わって）

9を7と2に分ける方法と、3を1と2に分ける方法とを比較し、被加数分解をした方が計算しやすくなる場合があることに気付かせ、加法計算の理解を深めさせる。

「今までと同じように、後ろの9を7と2に分けて10のまとまりをつくる。10と2で12になる。」

「9はあと1で10になるから、3の方を2と1に分けて、1と9で10のまとまりをつくる。2と10で12になる。」

「9のほうに10のまとまりをつくった方が、1動かすだけで10のまとまりをつくることのできて、はやくできそうだ。」

「大きい数のほうに10をつくった方が、速く計算できる。」

○被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の方法を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。（観察・発言・ノート）

・被加数分解を新しい考えとして価値付け、まとめる。

6 適用問題を解く。

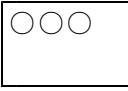
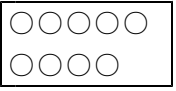
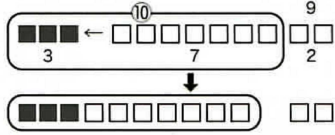
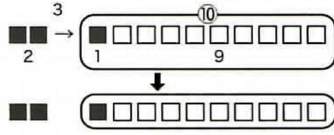
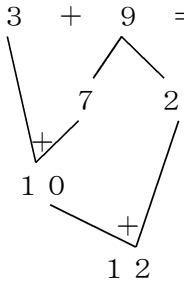
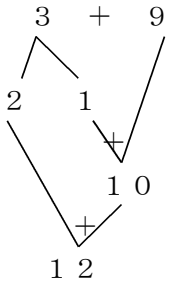
○練習問題を解こう。

- ・全員で1問解く。2 + 9

・本時まとめた被加数分解の方法で計算をさせる。

つ な げ る 10 分	7 学習の振り返りをする。 ○今日分かったことをノートに書こう。 ・前の時間とちがって、前の数を分けてもいいことが分かった。 ・大きい数の方に10のまとまりをつくれればいいことが分かった。 8 次時の学習内容を知る。	・本時の学習で分かったことについて発表させる。 ・次時は、本時に習った計算の練習をすることを知らせる。
---------------------------------	--	--

(4) 本時の板書

<p>たまごはあわせてなんこですか。</p>	<p>3 + 9のけいさんのしかたをかんがえよう。</p>	<p>10のまとまりをつくれば、けいさんすることができる。おおきいかずにまとまりをつくとよい。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>3こ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9こ</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまり ・ブロック ・けいさんず <p>しき $3 + 9 = 12$ こたえ <u>12こ</u></p>		
	$3 + 9 = 12$  <p>3のほうに10</p>	$3 + 9 = 12$  <p>9のほうに10</p>